

今月のテーマ

カンナ カムイ(雷神)

村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。

天

上にいる神、カンナ カムイ(上方の神)の名を持
つ雷のカムイ(神)。カムイが天上の国に住んで

いるのは知られていますが、なぜ雷のカムイだけこの名で
呼ばれるんでしょう?平取の川上まつ子さん(かわかみ)の話:「…

ウララカント(霧の天)の六つの天を私は突き抜けて、ノチ
ウカント(星の天)の六つの天を私は突き抜けて…シニシ

カント(雲の天)の六つの天、リク
ンカント(高い所の天)に…見る
とカンナカムイの村に…の話が

アイヌ語の「エハ」には「たくさん」
という意味もあるので、天上のた

くさんのカント(天)を突き抜
け、その最上のカントに雷のカム

イの村があるというもの。カンナ
カムイ(天上の神)の名で呼ばれ

る所以(ゆえん)でしょうか?

国立アイヌ民族博物館では、

「雷は人間がカムイへの感謝を
忘れないように定期的に訪れる

カムイ」と紹介しています。人間の行いを取り締まる役
割を持つ雷のカムイは、物語の中でカネシタ(黄金の

シタ)にのって移動します。シタの吊り紐を引き締
めたり、緩めたりすることで速度を調整し、シタの前

後を叩くことで雷鳴を響かせ、稲光を走らせます。雷の
カムイは、強い力をもつ上に気性が激しいことから、機



イラスト/山丸ケニ

嫌を損ねると、落雷で村をも焼きつくすと恐れられてい
るので、遠くに雷の音が聞こえたら、人間たちは家の中
でオリパク(行儀よくかしまる)してカムイが通り過
ぎるのをじっと待たなければなりません。

カンナカムイは稲光が走るその姿から龍神とも呼ば
れます。旭川では「…忘れる程の長時間、人に見られず

に過ごした蛇は龍になり、天空
にのって雷神になる…」という

お話も。カムイは、カムイの国で
は人間と同じ姿をしていて、身

に付ける着物はそれぞれのカム
イの特徴を表すトレードマーク

となる文様が入っているとい
ます。例えば、水のカムイはしず

く文様、疱瘡神(ほろやうじん)は稲光
うように…。雷のカムイは稲光

か角や鱗が表現された龍の形
かと思いきや、雷は雷(のづか)を降らせ
るから、あられ文様の着物を着

ているとのこと。なんだか可愛いですよ。

白老では、クッタラ湖のある山、クツタルシ ヌプリをカ
ンナカムイ エフキ(雷神が鎮座している所)と呼び、古

くから祈りの対象としてきたといいます。他にも幌尻
岳(ほろしり)や洞爺湖(とうやこ)をはじめ各地に雷のカムイの伝承が残され
ていますので、調べてみるのも楽しいですよ。



今回のテーマは「ブラヤ(窓)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トクレッポン」



イランカラプテ
「ごんにはは」からはじめよう。

- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。